

名誉会員 喜安善市博士を偲ぶ

戸田 巖

本会名誉会員

本会名誉会員の喜安善市さんが12月7日に90歳の天寿を全うされました。

喜安さんは愛媛県の生まれで1939年に東北大学をご卒業後、直ちに当時五反田にあった通信省に入省、以後電気試験所およびその後改組された電気通信研究所において一貫して電気通信、情報通信の研究およびその指導に専念され日本の電気通信技術の確立に貢献されました。

喜安さんの研究はきわめて多岐にわたります。電気通信研究所の輪読会で新しい論文が紹介されるたびに喜安さんは「このテーマは10年前に手がけたものだ」とおっしゃるのが口癖でした。これは決して過言ではありませんでした。

喜安さんの研究の第1は伝送技術の研究です。電気試験所ではフィルター理論、フィードバック理論の研究、電気通信研究所ではパルス通信、多重化、さらにPCM通信、誤り訂正符号、情報理論の研究を手がけられました。人間国宝の平家びわの永久保存がPCM通信研究の動機だったということです。

第2は電子計算機の研究です。フィルター研究では多量の数値計算が必要で自動計算の重要性を痛感されました。また戦時研究員として無人飛行機の無線操縦の研究に際してアナログ計算機への興味をかき立てられました。1954年に東大、後藤英一さんのパラメトロン発明の報を聞き、信頼度の低い電子管ではなくパラメトロンを用いた電子計算機の開発を決意されました。1957年には室賀三郎さん、高島堅助さんが世界初のパラメトロン計算機MUSASINO-1を完成させました。喜安さんはこの技術を産業界、学会に公開して計算機の国産化に貢献されました。

第3は電子交換機の研究です。電気試験所のころから電子交換のベースとなる論理回路等の研究を行っておられましたが、パラメトロンの発明とともに電子交換機の実験機の試作を指導され、その後の電子交換機開発のきっかけを作られました。

その他超伝導素子、計算機相互の通信、計算機と人間の通信のための通信網、計算機による定理証明の提案等枚挙にいとまがない分野の研究を手がけられそれぞれ成果を上げられました。

学会の活動にも熱心で1952年には電子通信学会に電子計算機研究専門委員会を立ち上げられました(委員長前田憲一、幹事喜安善市)。また学会の全国大会では常に最前列に座って若手研究者の発表に時には鋭い、また時には暖かい質問を投げかけておられた姿が目につかびます。

1962年に電電公社を退職され、その後は東北大学、足利工業大学で学生の教育に情熱を注がれました。また岩崎通信機、ティアック等でも手腕を振るわれました。

比類のない天賦の才能に恵まれた喜安さんは戦後の自主技術確立の時代に数々の独創的成果を挙げられました。同時に、電電公社、学会、産業界で多くの人材を育てられました。

喜安さんは博覧強記でかつスピーチの名手でした。いつも示唆に富んだ内容を聴衆の興味を惹くように話してくださいました。

これからは喜安さんの訶咳に接することができないのは残念至極です。でも喜安さんの偉業はこれからも永く語り継がれると思います。やすらかにお休みください。

(平成19年1月2日)



御 略 歴

1915年12月11日 愛媛県伊予郡岡田村生まれ
1939年3月 東北帝国大学電気工学科卒業
1939年 通信省電気試験所第2部伝送研究室研究員
1943年 電気試験所技師
1973年 陸軍航空技術研究所嘱託兼任, (内閣) 戦時研究員
1952年 電電公社電気通信研究所基礎研究部伝送研究課長
1955年 同電子応用研究室長
1959年 同次長
1962年 東北大学教授
1967年 足利工業大学教授
1968年 岩崎通信機取締役
1976年 ティアック顧問
2006年12月7日 逝去(90歳)

1960年3月 情報処理学会入会
1960年4月～1964年5月 情報処理学会理事
1965年5月～1967年4月 情報処理学会理事
1985年5月 情報処理学会創立25周年記念特別功績賞
1986年5月 情報処理学会名誉会員

受賞・栄誉

1942, 1950, 1951, 1957年 電気通信学会秋山・志田記念賞
1952, 1959年 電電公社総裁表彰
1962年 前島賞, 工学博士
1966年 電子通信学会功績賞
1968年 紫綬褒章
1970, 1981, 1985年 電子通信学会著述賞
1975, 1978年 通商産業大臣表彰
1981年 電子通信学会名誉会員
1994年 大川賞
2004年 C&C賞